

## 「普通に生きたかった」

写真は毎日新聞 12 月 30 日朝刊 1 面。年の瀬の 29 日、なにわの台所・黒門市場写真の上、標題の記事に注目した。ネットでも話題となったが、多くの人に知ってもらいたいので記事を紹介したい。リードから「普通に生きたかっただけなのに」。普通学校への進学を希望して 7 年間浪人生活を送った脳性まひのある渡辺純さん(21)=千葉県成田市=が 11 月に亡くなった。定員割れにもかかわらず不合格となる「定員内不合格」が続いたため、母親、みささん(57)は国や県に是正を求めている。



みささんによると、純さんはたんを吸引する医療的ケアが必要で、自力での移動が難しかったものの、小中生の時はバギー型車椅子を使って成田市立の普通学校に通った。中学には看護師が巡回し、急な体調悪化に備えてもらった。当時の担任教諭(50)は同級生も純さんと分け隔てなく接したと振り返り、「一緒に過ごすことで他の子の学びにもつながった」と語る。

2013 年から介助者を付けて受け続けた県立高校入試は追加募集も含めて 27 回不合格となり、うち 25 回が定員内不合格だった。理由を尋ねると、いずれの学校も「総合的な判断。障害が理由ではない」と答えたという。定員 62 人の 2 次募集に 10 人が受験して純さんだけが不合格となった定時制高校の教頭は取材に対し「入試の基準に従って判断している。具体的な理由は答えられない」と述べた。

元同県教委職員の江崎俊夫明治学院大特命教授(社会福祉学)は「障害者への支援が財政的にも人的にも学校にないのが理由では。日本では特別支援学校以外を選ぶと子と親は取り残されてしまう」と憂慮する。

27 回目の不合格通知を受けた今春、みささんが「もう受験やめる？」と尋ねると、純さんは低い声でうなり、「じゃあ、また受験する？」と聞くとニコッと笑った。9 月に体調を崩し入院生活の末に亡くなった。みささんは今年の成人式の写真を大切にしている。「純は普通に生きようと頑張った。そのために差別に立ち向かわなければならなかった」。中学時代の同級生と並んだ純さんは楽しそうな笑顔を浮かべていた。

定員内不合格問題は筋萎縮性側索硬化症(ALS)患者の舩後靖彦参院議員(れいわ新選組)が 11 月の参院文教科学委員会で質問し、実態調査を求めた。舩後氏は取材に「社会とのつながりを失う子どもたちを増やさないため、少なくとも定員は確保するよう入学を認めるべきだ。人類の共通の生きる目的である幸せの追求をできない人がいることに憤りを感じる」と答えた。

(2020 年 1 月 10 日)